

大谷専修学院

— 2024年度入学案内 —



もくじ

学院長挨拶	3
I 学院の教育について	4
II 学院の生活について	6
1 入学式	6
2 勤行と感話 3 清掃	6
4 授業	7
5 願生の会と同朋会 6 機関誌	8
7 行事・年間日程	9
III 食堂の生活について	1 1
IV 学寮の生活について	1 2
V 学院生活の1日	1 4
VI 学院生活をしていく上での留意点	1 5
VII コンプライアンス・ガイドライン・マニュアルについて	1 6
<学院周辺地図>	1 7

学院長挨拶

「えらばず、きらわず、見すてず」の 念仏の学校



さ の あきひろ
学院長 佐野 明弘

人と生まれたとはどういうことなのだろうか。自分が人間に生まれたのは何の為だろうか。私たちは人生に行き詰ると自らの存在を問いたくなる。調子のよいとき、うまく行っている時には考えたこともないこの問いがたち現れて来る。この問いはその時にだけある問いであろうか。いや、実は気づいていなかっただけで、私とともに私の根底にずっとあった問いである。この問いにさらされないものはいない。人間とは苦悩せざるを得ない存在である。仏教はこの苦悩から生まれた。そして苦悩から生まれた仏教が苦悩せざるを得ない私たちを包んで来たという歴史がある。この仏教の眼まなこがあらゆる衆生（諸有衆生）に向けられていたことを本願念仏に於いて明らかにされた。それが宗祖親鸞聖人である。

大谷専修学院は、この親鸞聖人が明らかにされた真宗の教えに基づいて開かれた学場である。学院は本科1年、別科1年と限られた短い期間であるが、集中して自らを仏法に学ぶ。そこでは集まったものが互いに師たり、友たりの朋友、法友関係となることが要請されており、他者との関係を通して学ぶことを

大切にする為、学院では学舎、学寮を修練舎とし、職員と学生が共に生活をする全寮制をとっている。

学院とは、学院での学び、他者との出遇いが、生涯を貫く聞法生活の出発点、再出発点となることが願われた場である。生涯聞法という真宗門徒のあり方は、とても確かな人生のあり方であると感じる。生涯聞法とは、学んだことの知識の量よりも、わかって、わからなくても、よろこべても、よろこべなくても、聞かねばならないものがあるという身のあり方のことであり、そのことが生涯を貫くところに確かな人生のあり方を感じる。生涯聞法すべき身に学ぶ。そういう真宗門徒の誕生が願われた場として学院は開かれている。

I 学院の教育について

大谷専修学院は、親鸞聖人によって一切のものに開かれた真宗として見出された仏教、即ち本願念仏の宗義に基づいて行われる仏教教育の場です。

仏教教育とは、仏の大悲のもと教師も学生も平等に仏の教えを仰ぎ、仏の教えじねんに順じるところに自然に行われる仏自身による教化を言います。つまり、仏と衆生の呼応による仏のお育てという教育が仏教教育であります。

この呼応の教育が実現される為に必然的に要請されるのが、師たり友たりの僧伽としての学習の場です。よって学院では学舎を専修念仏道場とし、学寮を修練舎とし、職員も学生も共同生活をする中に南無阿弥陀仏を本尊とし、その本尊のもと皆同じ法友、朋友として学びます。（これをブラザーシステムと称してきました。それに係る問題については次の頁をご覧ください）

呼応の教育を原理とし、共同生活を通して行われる教育で願われるのは信まことの人の誕生です。信まことの人こそが自おのずから真宗大谷派の教師の任を成しうる。即ち自おのずから生涯聞法し、聞法の間を敬い、聞法の間をこの世にひらいてゆく、そういうものの誕生が願われて、この場はひらかれています。これが真宗大谷派同朋会運動の具体的なひとつの形であります。

※「ブラザー・システム」、性差別問題学習について

2022年3月、大谷専修学院は「ブラザー・システム」の語を、「オールスチューデント・システム」へ暫定改定いたしました。しかしこれは今後も引き続き検討を続けていきます。

信國淳氏は「ブラザー・システム」の語について、「この学院における私どもと諸君との出会いは、師弟としての出会いであるよりは、むしろ兄弟としての出会いである」「教える者と教えられる者という、教えにおける人間の二者対立的な関係を絶対ゆるすことのない、仏の人間教育そのものに相応しようとするシステム」（『呼応の教育』21～22頁）と表現しています。

大谷専修学院では、この言葉のもとに共同生活における出会いを大切にしてきましたが、以前よりなされていた「ブラザー」や「兄弟」という表現への問題提起を、性差別に反対する声と受けとめることのできないまま、「ブラザー・システム」という語を使用し続けてまいりました。また、2017年には性差別事象を起こしながらも、学院卒業生や関係者の方々があげ続けた声を「糾弾」と受けとめることができず、4年以上もの時間が経過しました。これらの出来事を機縁とし2021年には、性差別を無視できた根本の原因を明らかにする学習が始まり、「ブラザー・システム」の語についても、ようやく改定に向け動き始めました。

性差別への糾弾の声をあげ続けてきた方々や、同窓生学習会「青草びとの会」事務局員と共に話し合いを重ねる中で、「ブラザー」や「兄弟」については、「同じ仏の教えのもとに全く平等であるべき」（同前10頁）人間の関係性を、「男性」と明確に性を別した上で、「男性同士」に限定する排他的な表現であることが確かめられました。男性中心の社会の中で形成されてきた男性＝人間という言葉づかいに思いが至らなかったことが明らかになったことです。

「ブラザー・システム」という言葉で表現されてきた職員の立場や、学生との関係性については、「この学院では、私ども教師と呼ばれる者も、諸君ら学生と全く同様、一否、むしろ私どもこそ率先して、自ら仏の教えの感化にあずかり、それから直に教育される」（同前10頁）ものと受けとめてまいりました。

これらの問題意識を共有し新たな表現を模索する中で、信國氏が、「念仏の信心という教育者」（同前23頁）のもとにみな学生（オールスチューデント）であること、「仏の教育的生命」（同前14頁）が互いの信心を呼び覚ます「呼応の教育」を学院における教育の願いとしたことを受けて、大谷専修学院では「ブラザー・システム」の語を、「オールスチューデント・システム」へ暫定的に改定することといたしました。しかし、スチューデントにはブラザーのもっていたブラザーフットのような語彙は認められない点など、まだまだ検討が必要です。

この度の改定が学院外からの糾弾によりもたらされたことの意義を重く受けとめております。「ブラザー」という語を使い続けることによって「存在しない人たち」を生み出し続けていたことは、大谷専修学院が「まことにわれわれはわれわれ自身の生活を顧みます時、それは完全に浄土を見失った生活であることを認めなければなりません」（同前19～20頁）と、信國氏の歎異する無慚無愧な場であったことを教え示しています。

「呼応の教育」実現に資することを念願し、性差別を無視できた根本の原因を明らかにする学習と、あらゆる差別克服の実践（関係性やシステムの再構築）を続けてまいります。その一環として学院では毎週性差別に学ぶ時間を設けております。

Ⅱ 学院の生活について

1 入学式

学院生はそれぞれ皆異なった事情や思いをもって入学をして参ります。限られた一年という短い期間を無為に過ごすことなく大切に過ごして行きたいものです。

ですからそれぞれの事情、思いに先立って、先ず御本尊の前で自ら宗祖親鸞聖人の教えに真摯に向かい合うことを一人ひとりが誓うことから一年の生活を始めます。そうして始まる生活が生涯聞法という真宗門徒の生活の出発点となります。



入学式での宣誓の様子

2 勤行と感話

学院での生活は、朝の勤行に始まり、夕の勤行で終わる日々です。荘厳しょうごんされた御本尊の前で、われわれは各自の内に仏前に身を据えていくあり方を学びます。

学院生は当番制によって朝夕における勤行ちょうしやうの調声いぎを勤め、その威儀を学びます。勤行後に行う感話は、学院生の聞法・学習をとおしての率直な生活所感の発表の場です。そして時にはそれが教職員と共に掘りさげられ、吟味され、共通の話題として取りあげられることもあります。また、勤行の当番にあたった学院生は、一日の学院生活の日直の役割もします。



朝勤行の様子

3 清掃

われわれは毎朝登院すると、班にわかれて、学舎の内外・トイレ・庭等の清掃を行います。また時には全般的な大掃除を行うこともあります。自ら進んで作業に勤しむ生活をします。



学舎掃除の様子

4 授業

(1) 学科

授業は仏教徒として真面目な学習態度を養うことと、社会生活全般について正しい視野をもつことに留意されています。学科は浄土真宗の教義を中心とする仏教の諸学問と、声明・宗教学・哲学・人間学・音楽等です。

「真宗学」は教職員・学院生の全員が聴講（全文筆記）し、ミーティング・攻究座談において、問題を挙げて深めていきます。

(2) 講読

浄土三部経と歎異抄は、グループに分かれて講読し、演習します。「聞くことを学び」「学ぶことを習う」真摯な自主的態度をお互いみがきます。

(3) 教化学

「教化」とは、「われもひと共にも共に仏から教化を受ける（教えられる）者」として自信教人信の誠を尽くし、同朋社会の顕現に努めることです。

学院では教化学として「レポート面接」を実施しております。各人が、自身の抱えている問題を課題にしていくことを通して親鸞聖人の教えに出会い、聖人の教えをどれだけ深く学び得ているかを、作成したレポートを手掛かりとして、教職員との対話を重ねながら確かめあう科目です。

また、教化学実習として当番制で講師をお招きして公開の「同朋講座」を担当します。

(4) 情操

書道・華道の学習によって、われわれの生活感情を豊かにし、人としての品位と和らぎの心を培います。

(5) 性差別問題

グループ学習による輪読、座談等の授業を行います。この授業を持つに至った経緯は5頁をご参照ください。



講堂での授業の様子



小教室での授業の様子



書道の授業の様子

5 願生の会と同朋会

(1) 願生の会

学院生、教職員、全員で願生の会を構成し、学院作り・学寮作りにおける共同生活の問題を共に話し合い、共に学び、共に解決していくことができることを願っています。

(2) 同朋会

学院生と教職員は全員で同朋会を結成し、同朋会活動に参加します。

年数回土曜日の午前に、各方面から講師を招き、「歎異抄に聞く同朋講座」が開かれています。これは一般に向けて公開されたものです。われわれは広く人々との間に交わりを求め、われわれに共通する問題を共に明らかにし、深めていくことを願うからです。



同朋講座

6 機関誌

がんしょう

『願生』は本学院の機関誌です。これを通じて学院作りの様子が同窓生等に伝えられます。



7行事・年間日程

春には親睦ソフトボール大会が催されます。また弁論大会も行われ、全学生の活発な弁論が発表されます。

秋には学院での「聞法・学習・生活」を発表していく場としての願生会が行われ、記念講演・研究発表・各種展示会などが催されています。

親鸞聖人の教えを学ぶわれわれは、真宗本廟で行われる、聖人の遺徳を偲ぶ報恩講に参拝し、また学院・学寮においても報恩講を勤修します。



◀◀◀ 親睦ソフトボール大会

近隣のグラウンドで行われます。ソフトボールを通して親睦を深めます。

弁論大会

1人ずつ壇上で弁論を発表してもらいます。お互いの声を聞き合う大切な学びの場です。



◀◀◀ 願生会

がんしょうえ

学びの中間発表の場として願生会を開催します。職員・学院生が協力して準備・運営をします。写真は飾り付けられた学舎玄関です。

学寮報恩講

各寮の仏間で行われます。報恩講を勤めた後に別科生が作ってくれたお齋を皆でいただきます。



<一学期>

- 4月 入学式・入寮式
オリエンテーション
真宗本廟 大谷祖廟参拝
親睦ソフトボール大会
弁論大会
- 5月 連休
グループ別課外学習
防火訓練
- 6月 得度式
期末レポート面接
- 7月 学期末試験
一学期終業式



<二学期>

- 9月 二学期始業式
前期教師修練
聖跡巡拝
- 10月 竹中智秀先生を憶う会
願生会
各種学校スポーツ大会
- 11月 研修旅行
期末レポート面接
真宗本廟 報恩講「御伝鈔」拝聴
真宗本廟 報恩講「御満座」参詣
学寮報恩講
- 12月 学院報恩講
学期末試験
二学期終業式



<三学期>

- 1月 三学期始業式
後期教師修練
聖跡巡拝
- 2月 卒業レポート面接
- 3月 青草会
学年末試験
おわかれ会
卒業式、教師補任式



Ⅲ 食堂の生活について

食堂は共同生活の具体化される主要な場であり、そこでは食事を作る者と食べる者が一体となり、学院の精神に呼応する場の開かれることが願われています。そのため、食事作りおよび後かたづけは教職員と学院生が協力して行います。別科生は、食堂のチーフ等の仕事を通して生活学習をします。休みの日は食堂も休みとなり、各自で食事をとります。



別科生は本科生に先立って起床し、皆のための朝食作りをします。
夕食作りは本科生も手伝います。
一週間の献立は別科生で決めています。

勤行のあと、食堂で別科生、本科生が作ってくれた食事を皆そろっていただきます。



本科生の当番が、皆の食器を洗い、後片づけをします。

Ⅳ学寮の生活について

本学院は全寮制です。原則として帰省・外泊はできません。

1 学寮

本学院にはいくつか学寮があり、学舎も含めて修練の道場であるところから、これを総称して本願寺修練舎と呼びます。

淳心寮 閑静な住宅街の一角にあります。



育英寮 自然がいっぱい、緑に囲まれています。



一心寮 学舎の目の前、山科別院の境内にあります。



2 生活規律

学寮は、教職員と学院生が生活を共にする学びの場であり、オールスケジュール・システム（5頁を参照）に基づいて、友愛にみちた規律ある生活が行われるところです。

起床・清掃・外出・学習・門限・就寝等については、定められた規律を厳守して、自主・自立的な生活を身につけるようにしましょう。そのためゲーム・かけごと・飲酒は禁止しています。

3 寮当番

学院生は班ごとに当番を定めて、その日の寮生活の全般について責任者となります。当番にあたった学院生は一日の生活所感を日誌に記入します。

4 ミーティング

週2回、班ごとにミーティングがもたれます。

火曜日は、真宗学を受けてその内容が深められていきます。木曜日は、生活全般について話し合い、共に学ぶわれわれの生活を常に新鮮で活気のあふれたものにしていきます。また必要に応じて臨時ミーティングを行います。



学寮へ帰りミーティングをします。学寮が一番重要な生活学習の場です。

5 学習と就寝

夜は静かにし、お互いの学習を乱さないように心がけましょう。一日の疲れをとり、明日の活動に備える睡眠時間は、共同生活にあっては特に注意し、お互いに大切にしましょう。

6 部屋の交替

お互いの交わりを深めていく共同生活の中で、寮交替・班交替・部屋交替をすることがあります。

V学院生活の1日

2023年度

↓ 共通の動き

↓ 本科生の動き

↓ 別科生の動き

時刻	月	火	水	木	金	土
6:20	起床・寮清掃	起床・寮清掃	起床・寮清掃	起床・寮清掃	起床・寮清掃	
7:00	食事作り	食事作り	食事作り	食事作り	食事作り	起床・寮清掃
7:20	勤行	勤行	勤行	勤行	勤行	食事作り
8:00	朝食・清掃	朝食・清掃	朝食・清掃	朝食・清掃	朝食・清掃	勤行 朝食・清掃
9:20	授業①	授業①	授業①	授業①	授業①	授業①
10:20		授業②	授業②	授業②	授業②	授業②
10:40	授業②		食事作り		食事作り	
11:20	授業③	授業③	授業③	授業③	授業③	授業③
12:10	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
13:10	授業④	授業④	授業④	授業④	授業④	
14:10		清掃		清掃		
14:30			諸会合	ミーティング		
15:00	食事作り		食事作り	食事作り	食事作り	食事作り
16:00		ミーティング		ミーティング		
17:00	勤行		勤行		勤行	勤行
17:30	夕食・清掃	夕食	夕食・清掃	夕食	夕食・清掃	夕食・清掃
19:00	入浴	入浴	入浴	入浴	入浴	入浴
21:30						
22:00	消灯・就寝	消灯・就寝	消灯・就寝	消灯・就寝	消灯・就寝	消灯・就寝

※時間は都合により変更する場合があります。

Ⅵ学院生活をしていく上での留意点

- 華美な装飾や服装、髪染め（茶髪等）は控えてください。
- 部屋は12～16畳の和室で複数名での共同生活のため、身の回り品は最小限度にしてください。
- 携帯電話、スマートフォン、音楽再生機器等の通信・通話機能を備えた機器を持参された場合は、学院での学びに集中していただくために預らせていただきます。ご不明なことがありましたら、ご相談ください。
(通信・通話に関する契約を無効にしているものも含まれます)
- 入浴については、風呂・シャワー等の設備があります。
- 緊急時以外、学寮での電話の取次ぎはしません。連絡は学舎にしてください。
- 夏休み、冬休みは学寮を閉鎖します。

<合格発表後の荷物の持ち込みについて>

荷物についての詳しいことは4月6日の入学説明会で伝達します。なお入寮は4月15日の入学式後になります。

※学寮の部屋は全て和室なので机は座机にしてください。イスの持込みはできません。

※学寮には共同使用として、エアコン、冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機、掃除機、加湿器、アイロン、洋服掛け等があります。

※電化製品類の持ち込みについては教職員に相談してください。

※次の物の持ち込みはできません。

テレビ等の映像機器、パソコン、タブレット端末、スマートウォッチ等、ゲーム類（カードゲーム・ボードゲームを含む）、楽器類、レジャー用品、運動器具、自転車・バイク・乗用車（レンタカーの使用も禁じます）

●学院の生活—朝の寮清掃から、登院後の清掃、勤行、授業、食事および食事作り、ミーティング等—は、すべて自分の内容としての生活学習であり、個人的都合で休んだり選んだりすることはできません。

●夏・冬休みを除く学業期間中のアルバイト・習い事はできません。

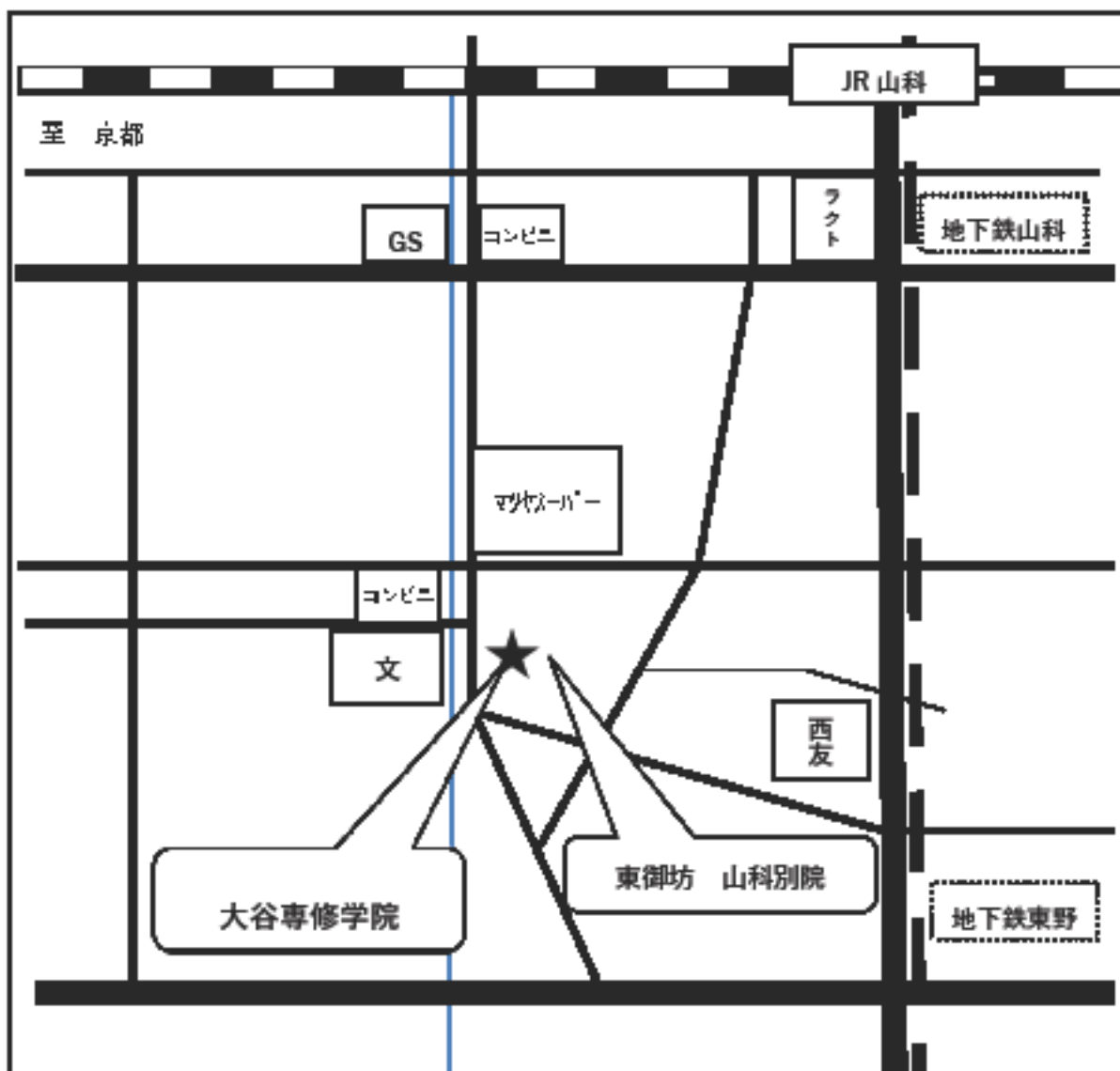
Ⅶコンプライアンス・ガイドライン・マニュアルについて

大谷専修学院では、「コンプライアンスマニュアル」、「新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」、「体調不良時・症状別対応マニュアル」の遵守に同意をいただいた上でご入学をお願いしております。

2024年度版については、2024年4月6日(土)入学説明会にて配付いたします。

参照として、2023年度版PDFファイルをそれぞれ添付いたしますので、入学試験・面接に臨むにあたって、ご一読いただけますようお願いいたします。

<学院周辺地図>



お問い合わせは、下記にお願いします。

大谷専修学院

〒607-8087 京都市山科区竹鼻サイカシ町13-17

TEL 075-501-5888 FAX 075-501-5858

JR・地下鉄「山科」駅6番出口より徒歩約15分

地下鉄「東野」駅1番出口より徒歩約10分